

令和7年度 全国競技運営責任者会議 報告 【要旨】

日時：令和8年2月11日（水・祝）

場所：味の素ナショナルトレーニングセンター会議室/オンライン

1. 開会あいさつ（田崎 陸連専務理事）

- ・競技会の運営方法を見直したい。
 - IT・AIによる省力化
 - ※運営方法の再定義をしたい
 - WAとJAAFの審判員制度の統合
 - ※WAの方針に寄せていく
 - ※2027年4月を目途に、新しい審判員制度を検討/実施
 - 競技カレンダーの見直し（特に暑熱対策）

2. 2026年度 競技規則修改正提案【以下、特に説明のあった所、及び石川県陸協に大きく関係ある頁を記載します】

- ・修改正の多くは、英語訳の適正化と誤解されないように文言等の精査によるもの
- ・WAは、6回/年の修改正をしている。日本は、年度で修改正している。
 - WRkなど競技の国際化を考えると今後、年度途中での修改正もあり得る。

・CR9 [国内] (明確化)

競歩でJRWJを任命するときは、陸連に事前申請が必要である。
→資格を有していても、陸連を介さない場合、認められない。

・CR31.14.4 (明確化)

混成競技の世界新記録・日本新記録について

→同じ競技者が2回目の不正スタートをした場合…世界記録・日本新記録と認めない

※しかし、記録自体は公認される

→異なる競技者が2回目の不正スタートをした場合… ” ・ ” を認める

・CR32 (注意喚起)

新規種目の「世界記録」「U20世界記録」・・・2026年の1月1日から認定開始

→導入されてからの日にちが浅いので能美競歩で更新される可能性高い

→ハーフマラソン競歩…【男子】1:21:30以内 【女子】1:30:30以内

→マラソン競歩…【男子】2:56:30以内 【女子】3:17:00以内

・TR5.1 (新規)

競歩競技では、膝の部分がはっきりと見える服装を着用

→歩形が確認できるように！！

・ TR5.1 (新規)

靴底検査中に靴底厚さを計測することを想定していない。

- WA のリストにある (市販されている) 靴は、基本的にリストにあるので測る必要はない。(現在の制度から考えれば抵抗があるかも・・・ですが、審判業務の簡略化を考えている様子。「以下私見」実際は、リストに照合する手間を考えると、怪しければ計測した方が早いかも・・・従来通り、疑義がある靴は審判長権限で計測できます。)

・ TR5.2 (新規・明確化)

駅伝のシューズは、道路競技と同様 40 mm とする。

→問い合わせが多いので明確化した。

→競技レベル (中学等を考慮し) を考えて適応するかは、主催者判断とする。

【中学校の登校用シューズなどを排除するものではない。もともと非公認なので、陸連としてこだわりを持つものではない。】

→クロスカントリーについては、靴底厚さに制限はない。

・ TR7.1 (明確化)

レッドの前にイエローが提示されるべき、しかし、悪質な行為には一発レッドだが不誠実に競技する場合もレッドを出すべき。(もっとも、イエローの前に注意や警告がなされるべきである。)

・ TR8.7 (改定)

上訴金の値上げ・・・10,000 円→20,000 円 (国際大会は 100 ドルは変更なし)

→選手の心情を凶っての上訴が乱発していることへの対策。

例) パラ 20,000 円・スキー100,000 円など他競技も参考に決定

・ TR9 (明確化)

性別による競技区分

【男子競技】【女子競技】【男女混合競技】

→男女混合競技・・・男女単一競技として行う。成績は男女一緒に表記。

→男女同時実施競技・・・成績が男女別に表記。

・ TR16.5 (修正)

不正スタートの“グリーンカードの提示”について、出発審判員の提示に代えて、スクリーン (電光掲示) やライトタワーでの提示でもよい。

→進行効率化と観客へのアピール「私見：従来通りの方が進行はスムーズかも」

・ TR17.3 (英語訳の明確化：WAに確認済み)

曲走路の内側を踏んだかどうかの判定。

- 走動作の中で一瞬でもラインを踏んでいれば踏んだと判定する。
- 一步の動作の中で、“足首を捻る”局面があるので判定に注意する。
- 地方大会では、ビデオ判定がないので監察員の記録用紙がエビデンスとなる。
- あらゆる映像資料（主催者以外が撮影したものでも）有効な資料として扱う

・ TR17. 5.1 (改正)

800mのブレイクライン

- 200m スタート地点付近の定点からの等距離を基準に引いたラインから、曲走路の最短距離への地点を基準に変更

【公認満了が 2027.4.1 以降の検定から適用】

※競技場の公認更新時に変更の必要…業者が把握していると思われます。

・ TR17.5.2 (改正)

二段スタートの代用緑石について

- 従来の代用緑石の他、150 mm～500 mmの高さのコーンを置く
- ただし、**コーンを置く場合 200 mm外方のスタートラインの改修が済んでから**

【公認満了が 2027.4.1 以降の検定から適用】

・ TR22.1 (改正：WA基準の追加…**国スポは国際基準で実施**)

300mHに一般が加わる。

すべてのカテゴリーで300mHの国際(WA)基準が加わる。

- 国際・・・300mで7台(400mHの位置に準ずる)
- 国内・・・300mで8台
- 詳細は、TR22.1の表を参照

・ TR22.1/TR22.3 [国内] (新設：国際との違いの明確化)

詳細はTR22.1 [国内] およびTR23.3を参照

・ TR22.6 (明確化)

故意・故意に関わらず、自レーン・他レーンのハードルを移動させてしまった時

- レースに影響がない(リズムの変化・ストライドの変化・走方向の変化など)
- または、重大な影響を及ぼさない限り違反(侵害行為)と認めない。**

・ TR24.1 (改正)

4×100mR男女混合の追加

・ TR24.4 (追加)

規定に反しない限り、テープを1枚以上に切り裂いて異なる形状の“一体形構造”のマーカールを作ることができる。(50mm×400mmの粘着テープで1か所は変更なし：矢印など独自の形を作れるが、一体である必要がある。点線など一体でない物は不可)

・ TR24.6 (修正)

バトンを落とした時

→競技者は**バトンを拾うために自レーンを離れることができる**。ただし走行距離が短くなることや、他の競技者を妨害してはならない。(内側に落とした時に注視してください。)

→**フィニッシュラインを通過するときは、当該チームのバトンを保持していなければならない**。(フィニッシュ前で落としてフィニッシュの向こうに転がっても、保持してフィニッシュし直す必要がある)

・ TR24.11/TR24.12

男女混合リレー (4×100mR/4×400mR とともに) 【男→女→男→女】の走順とする。

・ TR28.1

棒高跳の連続試技をする場合

→審判員は、次の試技の前にバーの位置を変更するか確認する。

3. シューズについて

★WRk大会で着用を認められるのは、WA認証シューズのみ。

→靴底厚さの計測は原則不要 (リストとの照合)

→靴底厚さが規定以内でもリストに掲載されているものである必要がある。

★IH以上の大会は、シューズ確認専門の「シューズ・コントロール・オフィシャル」を配置

★クロスカントリーは適応外

4. 競技会における広告・展示物に関する規定について

★医療用テープの広告規定

一つ (一体) のテープで一つの広告

→メーカー名入りのパワーテープ (巻型テープなど面積の広いもの)

・規定内の大きさを1つのみ・・・それ以外は隠す必要あり

→メーカー名入りのチタンテープ (エレキバンみたいなもの)

・一つで一つ広告OKなので隠す必要なし

★国民スポーツ大会での広告規定違反について

→ある選手の引退セレモニーにて、引退選手の記念T-シャツを作成、複数の他の選手がセレモニーで着用した・・・イエローカード、悪質であればレッドカード対象となる。

★駅伝での広告規定違反について

→レッグ・アームウォーマーに、商品特有のデザインが施されていた。招集時は着用しておらず、走る前に着用。

★2重登録者のユニフォーム

→チーム名が2つあると、一つは広告として扱われる。

5. 施設用器具委員会報告・・・詳細は、施設検定部へ

★グループスタートの位置変更

→旧：定点からの距離 新：ライン外端 200 mm

【2032年3月31日の検定までに適用・・・検定を受けずに変更不可】

- ・タイルの変更
- ・コーン（中：40本）の追加（高さ15cm～50cm…一般的なコーンは不可）
- ・コーンの端が5レーンの白線を隠す形で設置する。
- ・従来のスタートラインの場合は、代用縁石を全て配置する。
- ・3000 s c は、従来通りとする。

★300mH（WA規格）の追加

★走高跳の実施位置について

→必ずマークのあるところで競技すること。…公認記録として扱われません。

★直線―曲線の境目に“チビコーン”を必ず設置する。

6. 公認審判員制度の改正に向けて

- ・WA（国際）基準に合わせてゆきたい。
- ・審判長、主任はブロンズレフリー取得を進める。…主任は判定の伴うものを想定（競歩・スタート・写真など）
- ・ブロンズレフリーの試験がいつWAから案内があるかわからない。
- ・また案内から試験まで短期間である。
 - 事前に候補者を募集したい。
 - 男女同数が条件（WAより示されていて陸連としてコントロールできない）
- ・募集は、「ブロンズレフリー」「ブロンズ写真判定」「ブロンズスターター」

※ブロンズレフリーは、現在、県陸協の推薦で取得可能である。

→将来的に「NAR」取得後、3年経過しないと受験できない形になる。

参考) WAの審判体制

1. NAR・・・16歳以上、e-ラーニング受講、受講証明を発行し、実際の大会を実技として3試合経験し、県陸協を通じてJAAFに申請する。
2. ブロンズ・・・19歳以上、NAR経験3年以上、e-ラーニング受講、オンライン試験（種類：審判、競歩、写真判定、スターター）
3. シルバー・・・23歳以上、ブロンズ経験4年以上、e-ラーニング受講、オンラインセミナー
オンライン試験、筆記プレゼンテーション
（種類：審判、競歩、写真判定、スターター）試験・・・2年に1回
4. 4. ゴールド・・・27歳以上、シルバー経験4年以上、e-ラーニング受講、オンラインセミナー
オンライン試験、筆記プレゼンテーション
（種類：審判、競歩、写真判定、スターター）試験・・・2年に1回

※2027年からの審判員制度の修正・改正に向けて準備中

→審判手帳等の在庫管理に注意！！

7. 東京2025世界陸上ビデオ判定より

- ・意図的な妨害
- ・レーン侵害
- ・グループスタート
- ・バトンゾーン
- ・テイクオーバーゾーン走りだしの足のはみだし
- ・コーナートップ並び順
- ・幅の着地場所の離れ方
- ・幅砂場の境界に触れる判定
- ・投擲の足元判定

ビデオ判定で抗議を却下

男子 1500m、1300m で押し合い 2 名転倒→立ち上がり 2 人でジョグしながらフィニッシュ
「不誠実な行為」として、対処「DNF ではないが、誠実を尽くしていない」として却下

ビデオ判定でイエローカード

- フィニッシュ後、興奮しユニフォームを切り裂く・・・衣類規則違反
- 給水所での他競技者の飲食取得・・・・・・・・・・反スポーツマンシップ行為
- 給水所外での飲食物受取・・・・・・・・・・反スポーツマンシップ行為

8. 東京2025世界陸上スタート審判長の判定について

- 800m でのローリングスタート（動きを止めずにスタート）で審判長から権限を委譲された WA スターターが「遅延行為」としてイエローカードを出した。
- マラソンのスタートで、競技者が号砲前に飛び出した。スタート審判長がレースを止め再スタートしたが、WA スターターからロード種目に関しては不正スタートを打ち戻す必要がないとの指摘を受けた。【フィニッシュ後に、注意やイエローカードを出すのが正解：審判長判断】

9. JAAF が定めている記録用紙の改定について

- ★別冊資料を参照
- ★各種用紙は、この形式である必要はなく【内容が明確に伝わる】様式であればオリジナルを作成して構わない。 ※ただし、日本記録等の申請用紙は除く
- ★監察の記録は、抗議・上訴の際の有力なエビデンスとなるので確実に記載すること！！

10. 審判について

- ★競技会の省力化・スリムな競技運営を目指す。

→石川陸協も少子高齢化の影響により

- ・審判員の不足
- ・補助員の不足

が今後、顕在化する予想、対応するためにご協力を！

★WRk 大会のブロンズレフリー配置について

- ・配置できない場合は「競技運営監督者」を置くこと
→ブロンズレフリー取得までの経過措置（就任者の条件あり）

R 8 年度、県内の WR k 申請大会

- ・高校総体金沢予選
- ・県高校総体
- ・県選手権
- ・国スポ予選
- ・北信越高校総体
- ・大島鎌吉記念